

鴉片戦争.....	文科四年 山川はつの...六六
(短歌)	
旅の歌の中に.....	柴 舟...六八
題いろく.....	七〇
彙報	
東京女子高等師範學校學術談話會規程.....	七五
同文科部内規.....	七六
本會記事.....	七七
第二回會計決算報告.....	七九
交詢	
母校だより.....	八〇
宮崎だより.....	八二
三原だより.....	八三
小樽だより.....	八四

# 文科學術談話會々誌 第參號



## ◎エジプト旅行の談

理學士 山崎直方

エジプトが今を距ること六千年の昔に於て、己に世界の先進國として燦然たる文明の花を咲かせ居ました事は、ごなたも御承知の事でありましょうが、私は先頃旅行の途次數日を此國の觀察に費しましたから、今日は爰に唯通り一遍の旅客として、その瞥見談を致さうかと思ふのであります。

御承知の通り、アフリカにはサハラ及びリビアの大沙漠がありまして、此大陸の北部一面に擴がり、エジプトは實に其間に介在して居る國であります、抑も沙漠なるものは草もなければ木もなく、只岩の山や小石の山などが峨々として起伏し、又之に交つて沙原が發展して居て荒漠云はん方

なき所である、その荒れ果てた有様は沙漠の原語デザートといふ語が既によく之を現はして居る、何故に此地方が斯様な荒地となつたかといふに、一言で盡せば雨が降らないからである、雨が降らぬ故に水分が乏しい、従て植物が全く生へない、既に斯く地表を被ふべき草木がないため、地表に露出して居る岩石は直接に烈しい日光に照りつけられ、又風化作用に働かれることも甚しく、岩石の分解し破壊し行く事は著るしいのである、其崩れたものは又風に吹きつけられ更に粉碎して沙となり、沙は又風に飛ばされて岩石の面を掠めて削磨を手傳ひ、かくて土地は次第に荒地になつたのである、若しこれに少しでも雨が降れば多少苔や草が生えもしようし、尙一層雨量が増せば遂には大きな樹木が繁茂して来るのである、ところが生憎此アフリカ北部の地方は實に世界中で最も雨の少い地方で、一年中殆ど雨が降らぬと云うてもよいのですから、土地は永へに荒れ果てるばかりである、此茫漠たる大荒地の中にかのエジプトは太古の文化を埋めて横はつて居るのであります、其太古に於て世界の文明國として誇つたエジプトは今も尙天空をも摩するばかりのピラミッド、燒沙を抱くスフィンクスを始めとして、數多の記念を遺して過ぎし昔を語つて居るのであります、吾人は今日此等の遺物に對して見ても實に其盛時の一斑を想像するに難くないのであります、抑かゝる荒地の間に横はつてゐるエジプトが、世界最古國の一としてかゝる發達を遂げ得て文化を世界に誇る事を得たのは何故でありませうか、實に面白い問題ではありませんか、皆さん御承知の通りエ

ジプトをしてかゝる發達を遂げしめたのは實に彼のニール河であります、かく申しますと此沙漠では雨が降らない、それにどうして此様な大きな河がながれてゐるかといふ御質問が出ないとも限りませんが、成る程一應最もな質問ですが、今少しお話しすれば此疑問は自然と御解りになる事と思ひます、同じアフリカでも赤道直下の南北若干距離の間雨が相應に降るので殊に夏季に多いのである、此等の雨水が流れ流れて低きにつき遂にニールの上流を形造つて居るのであります、先づ地圖を開いてニール河の形を御覽なさい、普通の河は大低支流が木の枝の様に幾條も處々で本流に合して居りますが、ニール河に至つては支流は唯上流地方に於てのみ見る事が出來ます、中流から下流にかけては全く之を見ないのであります、これ上流地方には雨がふるが下流地方には降らぬといふ事を明に示して居るのであります、しかし上流地方の雨は其量に於て甚多いので、之が遠く流れて注ぐ間に沙漠の沙にもしみきれず、又全く蒸發もしきれないで、どんどん流れて遂に地中海まで下るのであります、そして之が又下流地方の平野に汎濫するのであります、此水流は又腐植質を含んだ至極豊饒なる泥土を上流から運んで來て河水の氾濫する限り、之を其兩岸に堆積して所謂エジプトの沃野を造るのであります、土人は別に肥料を施す面倒もなく立派に農業が營めるので非常に都合がよく已に六千年の昔に於て人文の發達を見たのも全く此自然の恩恵あるが爲めであり、さればエジプト人は直接天水の恩恵は蒙らぬが間接には其供給を得て非常の利益を得て居るといふ次第で

あります、もとエジプトの土地は随分廣いのですが、人文活動の天地は纔にニール沿岸數里の中の平野と、其下流三角洲の地方のみである、此地方だけはニールの流水に養はれて常に青々として居るのであるが、之から兩側へ一步でも出れば、即ちニールの洪涵平野を一つ離れると直に荒地の沙漠となるのである、青々たる一帯の平野と黄赭色の沙漠との境とは實に劃然たるものである、偕てニールの下流は首府のカイロの附近に至つて數多の技に分れ、恰も扇を擴げたやうに三角洲を作つて居て、カイロが又丁度最も大切な扇の要の處にあつて居るのであります、かくカイロは地形上から言つても、此國の人文上から見ても、政治上に産業上に至極大切な處で、單に地形上扇の要の如きのみならず、人文上にも亦要の性質を帯びて居るのである、王朝は屢々改まり、時代は段々と變化しても、依然として盛んな有様を繼續し來たのであります。

實にカイロ及び附近の古跡や、土人の風俗習慣、建築物などは旅客として只之を瞥見しただけでも甚だ趣味があり、且著しく面白く感ぜられたのであります、まして専門の學者が一たび此地を訪へは一事一物終生研究の資料となるも無理もないのです、第一に目につくのはカイロの都會が甚だ多方面の趣を有することであり、住民から言つても古エジプト人の子孫、アラビア人、トルコ人其他種々な人種が住んで居ります、わけて珍らしく思はれるのは凡て婦人の服装であつて、上流の婦人は流石にそれ相當に地質こそよいものを用ひて居りますが、概して地味で、まるで世を忍

ぶとでもいつた様な風をし居ります、エジプト人もアラビア人も共に婦人は眞黒な服を着て、同じ色の布を頭からかぶり、又顔の前には黒色の紗を垂して覆面をして居ります、身分かよくなると此沙の切が純白の薄絹を用ひて何となく氣高く見えます、そして此覆面の白布は鼻の上、額の邊にあてて居る筒様のものから吊り下げ居て丁度眼の部分だけ露はして居ます、エジプト人の一體に此覆面が長い様であります、長く垂れて膝の邊まで來て居ります、下等の者は覆面は用ひません、且つ徒歩で歩いてゐます、小兒を脊負ひますのも日本の様に脊に負ふのではなくて、左の肩に一寸小鳥でも止らせた様に乗せて、小兒の兩足の先を軽く手で押へて歩いてゐる様子はまるで輕業の様で一寸面白い風であります、土人の住つて居るあたりは道幅もせまい穢ない町であるかと思へば、又一方には峩々たる歐洲風の家が連なり停車場などはアラビア式の裝飾を施せる大建築である、電車も通れば馬車も走る、自動車も轟と唸つて走るといふ様な堂々たる市街も横はつて居るのであります又市街の掲示などはフランス文が多いので、瞥見フランスの勢力は非常なもの様に見るのであります、實際の権力は今はイギリス人の手に移つて居るといふ事は争ふ可らざる事實であります唯イギリスは巧妙なる植民政策を此地にも操つて、急に其舊慣を改めないで、徐々に本國風に化するといふ手段と肯かれるのであります、市には此外にもイタリア人、イギリス人等多く、ことに小さな旅宿などは大抵ギリシヤ人が營んで居る様子であります。

カイロと聞けば實に荒れ果てた淋しい市の様な感じがしますが、實際はトルコのコンスタンチノールよりも立派で賑やかです、コンスタンチノールは等しく世界的性質を持つた都會ではあるが、文明の利器は今尙甚缺けて居る、今では世界の都會と云ふ都會には殆んど用ひられぬ事のない電話の設備が今もこゝにはないのである、之に比べるとカイロは中々立派で種々の設備がよく盡されてあります、しかし其處で面白いのは此市街の中を電車が通るかと思へば、とぼ／＼と綿や野菜を積んだ駱駝の群が寛やかに通る、棗椰子の實を荷うた驢馬が行く、其の間を又急がしさに自動車が行く、文明、非文明あらゆる交通機關を網羅してゐるのは恐らくこの市の特色でありませう、種々な文明的施設が行き渡り、ことに衛生上の設備は至れり盡せりといふべきであります、此國は一体乾燥して居て従て水を飲む事が甚多く、野外に働くものも室内に執務すものも皆水瓶を携て居る、其飲料水にニール河水から取るのであります、今でも羊を胴抜きにして其皮を其まゝ水囊にし、川水をつめて町に運ぶものもあるが一方には既に立派な水道を引いて中々周到なる注意を拂つてをります、かのコンスタンチノールに於て衛生思想のいまだに經視せられ碌々水道もなく善良なる飲料水は瓶詰のものを買ふと云ふ次第に比べては雲泥の差であります。

偕て此國の都カイロの附近には太古の遺物が至る處に残つて居ります、カイロの直ぐ西の方には有名なギゼイがあります、此處にはエジプトの誇りとすべき大ピラミット、スフィンクスが荒漠な

る砂漠の中に立つて太古の眠を續けて居ります、其南方カイロから汽車で三十分許行けば太古の都メンフィスの遺跡がある、メンフィス附近のサツカラには歴代の古墳が澤山あります、しかもそれが種々の様式のものゝを網羅して居るのである、エジプト古代の風習や習慣を知らんとするには、此等の古墳の内壁に残された彫刻や、種々の遺物によるのが一番よいのであります、極く昔の頃即ちエジプトの第五王朝頃まではピラミットの外にマスターバと云ふ墓室があつて、丁度穴倉の様なものゝを造り之れを數室に分けて、其の中に棺を入れたものであります、此の室の壁は石灰岩で以て造られて居て之に色々珍しい彫刻が一面に施されてある、中にもチーといふ昔の有名な工匠を葬つた墓の如きは其壁面の浮き彫が一面に繪卷物でも見るように當時の風俗が遺憾なく寫されてある、農夫が收穫をして居るところ、種々の家畜を追ひ又は家禽を養うて居る様、ニールの川で魚を捕つてゐる處や、大工が家を作つてゐる圖や、指物師が仕事をして居る有様、船大工の造船の狀、又は戸口調査に書記が忙がしげに筆を執て居る姿など、其他あらゆる職業につき中々多方面に涉つて澤山描かれて居ります、そしてそれに例の象形文字の記事が限なく詳しく彫りつけられてある、凡て此れ等は今日も猶彩色まで褪せず奇麗に残つてゐるものが少くありません。

又殊に奇妙なのは牛を非常に神聖視したことがあつて、どこかに黒白の斑で其上に三角の斑のある牛が産れたなれば此牛はアピスの神の乗り移り玉へるものであると云つて御堂を建て、養ひ、其

死んだ後は之を人間と同じく木乃伊にして、花崗石やアラバスターなどの美しい石で大きな石棺を造り、之に収めて上に更に大きな墓室を作り之に葬つたものである、サツカラにある地下室の長さ三百五十米に上り其兩側に三十餘有の室や廻廊があつて室内には彼の石棺が納めてある、この墓室のことをセラピウムというて居る、猶此アピスは後に外國から傳はつたセラピスと混同せられ、共に此等の神を祭りある所を一般にセラピウムと申しますが、之はエジプトは勿論、其昔し此國と交通した所へは到る處に傳はつたもので現にイタリアのナポリの附近にも其遺跡があります。

次に最も見るべききものはピラミッドであります、之も昔の墳墓であつて、第三王朝の時即ち紀元前二千九百年乃至二千八百五十年の頃に始めて造られました、サツカラにあるものは、其朝のツォゼン王の墓で其形は後世のものと同異つて階級状をして居ります、即ち四角な石を積み重ねて數階の階段状に造つてあるのです、次には此の階段的のものが變じて表面の滑らかなものが出來たこれが普通のもので後世まで多く造られました、此等のピラミッドはカイロの西方沙漠の臺地の邊緣に六七里の間に其處彼處に凡そ六十許も並んで居るのである、遠く連らなれる沙丘の蔭から將に沈まんとする夕日が力ない光を其上に投げかける時は流石に盛かりに榮えし昔の有様を想像して轉た懐古の情に堪へないと共に又一種崇嚴の憾に打たれざるを得ないのであります、此等のピラミッドは何れも其底面は正方形であつて、しかもその四邊は正確に東西南北の方位を指して居ります、又其内部の

墓室への入口は必ず北面あるのである、又有名なギゼーにある三基の大ピラミッドの中で大と中との二つは其對角線が正に一直線上に横つてあります、ピラミッドの傾斜は甚だ急で斜面と底面とのなす角は約五十二度を常として居ります、ピラミッドの一番大きいのは今述べたカイロの西なるギゼーにあるもので此は第四王朝（紀元前二八五〇年—二七〇〇年）のチウフ王の墳墓のために造つたので高さ百四十六米、その積みあげられたる一個の石灰石の大きさは一・一立方米位で實に立派なものであります。

古代ギリシヤの歴史家の泰斗ヘロドトスが、紀元前四百六十年頃に此所に来て、土人に案内せられて、此のピラミッドの壯觀を見て非常に感嘆し、かゝる大きなものを作るには凡そ十万人の工夫が三箇月もかゝつて作つたであらふ、又此等の材料たる石はニールの對岸の地から截り出したもので、それには凡そ十年もかゝつただらうと考證して居ます、其上に此のピラミッドの大サは一般に王の勢力の如何に大なりしかを示すものゝ如く思はれて居ましたか、近頃西洋の歴史家が研究を重ねた結果によりますと、王が死なれたからといつて、さう急に此大墳墓が作られたものでなく、之は既に王の存命中からその墳墓として經營せられた所のもので、即位の始めから造りかける、それ故初めは小さなもので、次第に之に層又層と石の皮を被て大きくしたのである、従つて在位の年代長く權力の盛であつた王のものは無論最大なるものであると云つて居り、又更に新しい説による

と、王の在世中に作りしは勿論のことであり、加之ピラミッドを作るにはその一定の制限があつたものであらう、然し何といつても権力の旺盛であつた王のは勢ひ大きくならざるを得なかつたのであらうと思はれる點は、今日その内部の構造に屬を造り變へられた痕跡の認めらるゝことである、要するに王の在位中に造られたものであるといふことは今日では諸家の説の一致して居ること、死後勿々に大工事をやつたものでないとのことであります。

彼のギゼーにある大ピラミッドは、數多ある中で最も大きなもので、中にはさぞ立派な棺や古代の遺物の珍らしいものがあつたらうと思はれるのでありますが、例の墓場荒しのために今は残念ながら何も残つて居りませぬ、しかし他のピラミッドの中から屢々珍らしいものが發見せられますので、彼の有名なラムセス二世の木乃伊を始めとして無数の木乃伊は美しく畫かれたる棺と共に發掘せられてカイロの博物館に收められてあります、近來エジプト政府では専ら此等の發掘に従事し、又外國人も擧つて珍らしいものを發掘しやうと競争する様であります、もし外國人がこれ等の遺物を發掘した場合には必ず其の發掘品の一部をカイロの博物館に收めることになつて居ります、實に今日ではヨーロッパでも大低の博物館にはエジプトの發掘品があり、大英博物館など其最も著しいものであります、カイロの博物館へ來て見ることは又格別で博物館全部が此等の古物で中々尤物に富んで居ます、木乃伊の如きは唯今述べた通り實に無數と云ふべきので歴代の王様や王妃其

他實に澤山あります、其他種々の動物、即ち犬、猫、牛、野獸、鳥類、魚類、クロコダイルなど、太古のエジプトのありとあらゆる活きものが皆木乃伊となつて現在カイロの博物館に陳列せられてあります、尙當時エジプト人の用ひた衣服、その食した食料品の日用品及び種々の器具なども實に數限りなく多方面に涉つて甚多く残つて居ります、彫刻などには實に美術的の立派なものがあり、工藝品などは七寶金銀細工などにはとても數千年前の細工とは見えぬように著しく發達したものがあります、此等の列品につきて詳しく御話いたすと誠に際限がないのでありますから今日は割愛することゝいたします、此等の珍らしいものの中でも數の多いものとか、重複品とか、不用のものとかは博物館で相當の代價を拂へば觀客に賣るやうになつてゐます、古物は町にも澤山ありますが贗物が多いのは免れない、そこで此博物館では十分に安心して買へますから誠に重寶であります、私も銅像、陶像、木像などの小さなもの數點、クロコダイルの木乃伊、紀元前千五百年の墓から出た麥の粒、其他一二のものを求めて參りました。

私がエジプトに參りましたのは僅かに數日間逗留したのに過ぎませんが、親しく其地を踏んで實際その風光に接した時は轉た今昔の感に堪へなかつたので今その面白く思つたことの大要を述べて御參考に供した次第であります。

(完)